

2026年6月10日  
TOPPAN 株式会社

**TOPPAN、「第4回製造業DX展[東京]」に出展**  
製造現場の自律化や製品の高度なデータ管理を実現する様々なソリューションを紹介  
人手に依存しない、持続可能な生産体制の構築を支援

TOPPAN ホールディングスのグループ会社である TOPPAN 株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:野口 晴彦、以下 TOPPAN)は、2026年7月1日(水)から3日(金)に開催される「第4回製造業DX展[東京]」(「第38回ものづくりワールド[東京]」内/会場:東京ビッグサイト)に出展します。

本展示会は、製造現場や工場内のDXを推進するIT製品やサービスが出展される展示会です。TOPPAN ブース(西3ホール・小間番号W19-10)では、「IDマネジメントで人手に頼らない次世代の現場を実現」をテーマに、製造現場の自律化や製品の高度なデータ管理などに貢献するソリューションを紹介いたします。



TOPPAN ブースイメージ

### ■ 主な展示内容

#### ・製造現場の自律化・省力化を支援するIoT・RFIDソリューション

製造現場の自律化・省力化を支援するソリューションとして、RFID機能を搭載した自律走行搬送ロボット(AMR)による、製品の棚卸しや保守点検を紹介します。また、従来提供している統合型製造DXソリューション「NAVINECT®」や輸送容器所在管理システム「LogiViewer®」など、現場の可視化を実現するサービスと導入事例を展示します。これらのソリューションにより、人手に依存しない、持続可能な生産体制の構築を支援します。

### ・物流サプライチェーンマネジメントシステムによる高度なデータ管理

TOPPAN は、物流過程においてセンサーで取得した温度などの製品状態データを、国際標準仕様「EPCIS 2.0」(※1)に準拠して共有できる、国内初のサプライチェーンマネジメントシステムを提供しています。本システムにより、欧州で導入されているデジタルプロダクトパスポート(DPP)(※2)に関する国際的な規制などにも対応した、高度なデータ管理を実現します。本展示会では、RFID 付き製品とリーダーを用いた入出荷のデモンストレーションを行います。読み取った製品情報が、国際標準仕様「EPCIS 2.0」に基づき、瞬時にシステム画面へ反映・共有される一連の流れを実演します。

### ・トレーサビリティとホログラムを活用した真贋判定ソリューション

製品の生産から流通などの履歴を管理するトレーサビリティシステム「ID-NEX®」とホログラムを組み合わせた真贋判定ソリューションについて、導入事例を紹介します。将来的なデジタルプロダクトパスポート(DPP)導入への対応も見据え、製品の真贋判定による模倣品対策だけでなく、サプライチェーンの透明化を通して企業の信頼を守る、高度な管理体制の構築を支援します。

### ・製造現場における電子ペーパーの活用事例

表示内容を自在に書き換えられる電子ペーパーを活用し、製造現場のペーパーレス化と業務効率化を実現するソリューションを活用事例とともに紹介します。紙の指示書の印刷や差し替えに要していた工数を削減することで、製造業の現場 DX を推進し効率的な現場運用の構築を支援します。

## ■ 「第4回製造業 DX 展[東京]」について

名称:「第4回製造業 DX 展[東京]」

会期:2026年7月1日(水)~7月3日(金)

開場時間:10:00~17:00

会場:東京ビッグサイト(TOPPAN ブース:西3ホール・小間番号 W19-10)

主催:RX Japan 株式会社

公式サイト:<https://www.manufacturing-world.jp/tokyo/ja-jp/about/mdx.html>

※1 EPCIS2.0: 流通コードの管理及び流通標準に関する国際機関「GS1」が定めたモノの移動に関する情報を共有、交換することでサプライチェーンの可視化を行うための唯一の国際標準仕様である「EPCIS」の最新版。①可視化データのフォーマット②可視化データを取得・共有するインタフェースを規定している。EPCIS 標準を採用し、サプライチェーン上の関係者が共通して理解できる形でデータを共有することにより、製造・出荷・入荷・販売プロセスなどの可視化が可能。

TOPPAN は、輸送時の温度データなどセンサーで取得したモノの状態に関する情報を、サプライチェーン可視化のための国際標準仕様「EPCIS 2.0」に沿って共有できる、国内初のサプライチェーンマネジメントシステムを提供しています。

[https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2025/07/newsrelease250709\\_1.html](https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2025/07/newsrelease250709_1.html)

※2 デジタルプロダクトパスポート(DPP): 欧州を中心に導入が進む、製品の生産から廃棄に至るまでの情報をデジタルデータとして記録する仕組み。EU の規制によって、欧州市場で販売される特定の製品カテゴリーの全ての製品が対象となり、消費者が製品の真正性やサステナビリティ情報を確認できるほか、サプライチェーン全体の透明性向上に寄与します。テキスタイル(繊維製品やアパレル)分野では、2027 年より導入が予定されていますが、今後、化粧品や香水をはじめ、様々な製品カテゴリーでも 2030 年頃を目処に導入が拡大する見込みです。

\* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

\* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以上